

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4099900021		
法人名	社会福祉法人 慈光会		
事業所名	グループホーム幸		
所在地	福岡県田川郡大任町大字今任原3401-116 (電話) 0947-63-4150		
自己評価作成日	令和元年10月10日	評価結果確定日	令和2年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

緑豊かな自然環境の中、地域の一員としてゆったり過ごして頂ける環境です。当事業所では入居者の日々の過ごし方を大事にして毎朝の日課活動の支援やレクリエーション、行きつけの理容院、病院通院支援を行い馴染みの人との触れ合いを作る機会を多く作っています。併設する特別養護老人ホームでの初盆会、敬老会などのイベントは非常に好評です。また、月に一度の食事を通したレクリエーションなどで役割を作って頂く、ドイツゲームなどを使ったレクリエーションで指先の運動、脳活性化などの新しい試みに取り組んでいる。従業員は同じ大任町の子育て中の女性が多く休みの日には子供を連れて遊びに来てくれることもあり、そこから世代間を超えた交流も生まれて活気づく場面も生まれています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和元年11月8日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

市街地から車で数分の緑豊かな自然環境の中、特別養護老人ホームと併設し立地している。事業所は、開設当初からの理念を継続しており、家庭的な雰囲気大切にしている。また、身体拘束廃止や高齢者虐待防止などを重点項目として掲げ、尊厳のある対応ができるよう取り組んでいる。そのなかで利用者は、2階建て1ユニットの居住スペースで、くつろがれたり、散歩に出かけたりと自由な雰囲気過ごされている。
家賃や光熱費、食材料費は安価な設定となっており、利用しやすくなっている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『ここがあなたの幸でありつづける家』という事業所の理念を事業所内に掲示、スローガンとすることで理念は共有できている。それをチームケアや入居者へのアプローチに活かしている	開設当初から事業所理念は変わっておらず、ホームに入居されても自宅と同じように生活し、地域とのつながりも持ちながら過ごしていただきたいとの思いを実践に繋げようとしている。事業所としての理念は受け継がれているが、管理者や職員の入れ替わりもあり、理念について職員間で話し合いをする機会がない。	地域密着型の視点を取り入れた理念の構築について、職員間で話し合いをする機会を設けて欲しい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する系列施設での行事参加や地域行事の参加を通じて日常的に地域住民との交友は図れている。職員は皆田川郡内の人間であり共通項など見つけてそれを日々の会話などにつなげる努力をしている。	併設の特養と地域の方々と夏祭りや敬老会を催し、交流の機会を設けている。日頃も、子供が遊びに立ち寄るなどの交流がある。また、今年度より「子供と女性の安全見守り企業」として登録も行い、地域の防犯パトロールなどの活動を行っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所で常に介護相談など受けつける呼びかけをしている。2019年には従業者が2名認知症キャラバンメイト養成研修受講終了しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催している。行政や地域包括の職員、家族に参加していただいている。写真などを添えて事業所でのサービス内容を報告している。その意見を吸い上げサービスの向上に活用している。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催し、利用者、家族、行政福祉課担当者、地域包括支援センター職員の参加がある。日頃の運営状況を報告を行い、意見や提案を運営に反映させるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大任町役場や包括の職員に運営推進会議に参加してもらっており相互の協力関係はできている	運営推進会議や地域包括支援センター主催の介護予防教室へ参加するなどできるだけ行政の担当者と顔を合わせるように心がけている。日頃からも問い合わせや書類手続き等、窓口に出向くことも多い。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束に当たる入居者はいないが、行政関係者を交えた身体拘束廃止委員会や施設内の研修を通じて身体拘束に関する啓発を行っている。玄関は施錠せず屋外に出ることは利用者の意思でありその際は散歩に付き合うなどの柔軟なケア活動を行っている。	管理者は、身体拘束廃止や高齢者虐待防止については重点項目として掲げ取り組んでいる。研修は行政福祉課の職員をアドバイザーとして招き、職員の意識向上と共有認識を図っている。日中の施錠は行われておらず、行動を制限しないようにしている。利用者も思い思いに過ごされていた。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を行っています。日頃よりスタッフの対応が人権侵害にあたらぬか従業員には周知徹底させている。“自分の人権を守れないものが人の人権を守れるわけがない”それを介護職に周知徹底させ風通しの良い職場を作るように努め間接的に予防に努めている		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	近く成年後見人を利用している方が入居するという事で共有空間に資料を置いて閲覧できるようにしている。	権利擁護については、契約時に説明を行うようにしている。また、共有空間に、成年後見制度や日常生活自立支援事業に関する資料を用意している。職員の入れ替わりもあり、職員教育等については今後、計画をしている状況である。	権利擁護に関する制度の理解と活用について、職員は学ぶ機会を持ち、必要に応じ関係者と話し合い、制度を活用し支援する必要がある。今後、充実した研修を期待したい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は必ず口頭で行い、納得理解して頂いた上で署名捺印をして頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二か月に一度の運営推進会議には家族にも参加して頂いている。それ以外にも面接時の家族さんとの会話の中で要望を伺いそれを運営に反映させるように努めている。	日常的に利用者の声については要望を聞き入れ、食事やイベントなどに反映している。また、第三者として地域の神主の方が来られ、傾聴する機会もある。家族に対しても、意見交換会としてバーベキューなどの場を設け、広く意見を聞くようにしている。具体的には、手すりの設置など設備改善につながった事例があった。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度内部研修時に職員がそろう機会を設けている。会議の場以外でも管理者は常に従業員の意見や提案を聞き、それを言いやすいように風通しのいい組織作りを努めている。	職員は自発的に意見を挙げることが多く、管理者もまたその意見を尊重し検討するようにしている。事業所内の飾りつけなど、職員が自主的に行っている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者及び管理者は、職員の勤怠、勤務態度及び意欲を考慮、評価し職場環境の向上につなげている。研修会や資格習得の情報を意欲のある職員に対して提供して向上心を持って働けるように努めている。現在、初任者研修、自己啓発セミナー、キャラバンメイト研修などに行っている職員もいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に関しては性別、年齢、国籍で差別はしていない。年齢も30代から70代まで幅広い年齢層の職員が働いている。フィリピンの勤務実績もありました。プライベートの充実を趣旨に公休なども可能な限りそれに応じた物を作成しています。	職員の採用は、適性や人柄を重要視し、年齢や性別等による排除は行っていない。事業所の体制としても、ワークライフバランスに配慮するなど、働きやすい職場づくりを目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修、および啓発のポスター、リーフレットを事業所内に掲示配置して意識づけに努めています。	人権教育や啓発活動については、今後、研修などを行う予定としている。	利用者に対する人権を尊重するため、人権教育、啓発活動について、研修を計画し、実行して欲しい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を月一度開催している。業務内では新人には指導役が自然について日々の業務内でOJTが実践できている。資格修得希望者、研修参加希望者に対しては優先的に休みなど付与している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会には入会している。管理者は他施設に訪問。介護職は医療機関への受診、外部研修を通しての定期的な交流を図っている途中である。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前など面会や訪問しての気分伺いなどを密にしてその方との関係性を作るように心がけている。入居してからもよく話を聞いて馴染みの関係性を早期に構築出来るよう努めている		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の望むサービスを理解するように努めている。不安に思っている事や困っていることを気軽に相談できるような人間関係の構築に努めている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況把握に努め入居者に合わせた支援や今後の方向性などを本人及び家族と話し合い希望に添えるように可能な限り努めている		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人一人の生活習慣を大切にして趣味特技等活かせる場所を作るように配慮している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事やイベントには家族さんにも参加の働きかけを行っています。また入居者、家族間の関係も大切に出来るように配慮を行っている		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族をはじめ地域の人や友人が訪ねてきます。入居前のかかりつけ医への継続受診、月命日や不動産院への参拝などの外出支援など馴染みの人や場所との関係が途切れない支援をしている。	利用開始時、職員は利用者の馴染みの関係などを把握し、入居後も支援するように努めている。毎月、お寺へお参りする習慣があった方に対し、参拝が続けられるように支援しているケースなどがある。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間のコミュニケーションが取りやすいよういつも過ごしやすい環境づくりに努めている。事業所外においても希望に応じて馴染みの関係が継続できるよう送迎などの支援を行っている		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実績としては退去後も余命いくばくのない方の見舞いにいかせてもらった。事業所で亡くなった方を盆供養した際は家族にお知らせをして一緒にお参りしたりするなどの取り組みをしたりしてサービス契約が終了しても利用者だった方やその家族との関係性の維持に努めています		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	それぞれの場面において個々の状態を把握した支援を行っています。意向を表すことが困難な方もいますが本人の素振りや言動から意向をくみ取るように努めている	利用者のその日の心身の状態、状況に応じ、職員都合ではなく、利用者本位を考慮に入れた声かけ、意向等の把握がなされている。また、管理者、自らも利用者に積極的な関わりを持つよう心掛けている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人の生活歴などを情報収集している。介護スタッフも地元の人ばかりなので生活歴や馴染みの生活のことで盛り上がる場面も見られる。入居前には家族およびサービス事業者から情報収集をして暮らしの継続を趣旨にアセスメントを行っている		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムの中で入居者の心身状態や持てる能力の把握に努めている。些細な変化も見逃さずそれを職員間で共有してケアにあたっている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向、スタッフから意見とニーズを聞き、それを反映したサービス計画及び実施に職員全体で努めている。	計画内容については、利用者、家族の要望を聞き、「100歳まで元気に生きたい。」など、本人の思いに添った計画が作成されている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の外出や外泊、入院、受診生活状況はすべてパソコンの介護記録に残しており介護計画の見直しなどに使われています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化や暮らしの継続において最適なやり方を検討し、本人や家族の意向には柔軟なサービス提供ができるよう努めている。要望はその都度ケアプラン変更する等して対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの関係が途切れないよう送迎支援など行っています（不働院参拝、行きつけの美容院など実績あり）在宅時に継続していたところを継続して利用するなどしている		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に対して柔軟に対応して希望する医療機関への受診介助を行っている。受診時はその都度報告して信頼関係の構築に努めています	受診の際には、必ず職員が同行している。また、家族への伝達方法については、個人記録に内容を記載し、記録に残している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師とは看護開始前の申し送り、採血などのデータ提供など行っている。24時間体制で相談や緊急時の要請ができる関係性を作っている		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は必ず頻度を多く面会している。その中で主治医、看護師、ソーシャルワーカーと必要な情報交換を行っている。治療方針を聞き、ホーム側の意向を踏まえながら早期退院のできる体制。入院先とは良好な関係を構築できるようにしている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人及び家族の意向を十分に踏まえ、重度化や全身状態の低下が進んだ時の対応を医療機関と相談しながら検討している	個々に体調の変化が起きた際には、職員間同士での取り決めは出来てはいるが、明文化までは出来ていない。	重度化や終末期についての事業所の方針を明らかにし、明文化して欲しい。
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場には応急手当普及員がおり、訪問看護の事業所の看護師協力のもと虫に刺された時などを想定したトレーニングを定期的開催している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施。併設施設や近隣住人の協力を得ている。	夜間を想定した避難訓練は、今年度実施予定である。基本、毎年2回の避難訓練はなされているが、具体的なマニュアルが作成されていない。万一に備えた備蓄品については備蓄の準備は出来ている。	災害時のマニュアルは必ず必要です。早期にマニュアルを作成して欲しい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナー研修会の実施や普段のケアを振り返り声掛けの確認をスタッフ全員で行っている	入浴前後やトイレの排泄中は、プライバシーに配慮したに取り組みがなされている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	当人の希望を把握するため日常生活の会話や動作からヒントを得て可能な限り自己決定の支援ができるように努めている		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、一人一人のリズムを優先にしてその日の過ごし方を優先するようにしている		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類も外出の際などは本人の来たいものを着ていただいている。重ね着などあった場合は職員が整容の補助をしている。髪型も馴染みの美容師が使えるようにその人らしさを大切にしている		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食献立表を掲示。食事の準備、配膳、片付けと手伝いたいという方がいれば一緒に行えるように支援をしている。嗜好や食事形態にも配慮して安心して食事をしてもらっている	職員が同一時間、同一場所で利用者と食事をしている。食事摂取量などはパソコンにてデータ化し、一元管理が出来ている。また、個々の嗜好や味付けなど配慮もなされている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して食事・水分量のチェックを行い摂取量の把握に努めている。水分も水素水浄水器を使ったお茶、牛乳、トマトジュースなど飽きの来ないように提供をしています。月に一度利用者の要望を聞いて食べたいメニューを食事レクリエーションとして提供して栄養摂取や水分摂取は工夫して行っています		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	感染症予防、誤嚥性肺炎予防の観点からその人に合わせた口腔ケア（歯磨き、うがい、義歯洗浄）の介助を実施して口腔内清潔維持に努めている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護ソフトで排便記録を付けて排泄パターンを掴んでトイレ誘導介助のアプローチをしている。	排尿リズムを職員個々が把握し、自立に向けた支援を行っている。また、失禁が見られた際には、職員の何気ない迅速な対応がなされている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護ソフトの排便記録を活用して排便間隔を把握するように努める。一日一度水溶性の食物繊維を水分補給時に提供し自然排便できるように支援している。排便困難時は訪問看護師、かかりつけ医と相談しながら排便コントロールをしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は週三回日を決めて行っているが、気が乗らない、受診の関係などで入れない場合は予備の日を作り週三回の入浴が出来るようにしている。入浴中は季節感を感じられる入浴剤を使う。防水スピーカーで音楽や漫談を聞いてもらったりして入浴を楽しめるアプローチを試みている。入浴気のない方や不眠傾向にある方には足湯なども取入れている。	利用者の要望に応じた、毎週3回の入浴機会がある。また、失禁や受診日に応じ、臨時的な入浴もなされている。入浴を拒否される利用者には、誘導する職員を変えたり、しばらく時間を置き、再度、誘導するなど清潔保持に関する配慮もなされている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には皆消灯時間より入眠されています。一時不眠など有った方もいたがその際は日々の申し送りや主治医に相談して適切な対処を行いました。夜間は一時間に最低一度の巡視を行っています。そのようにして安心して気持ちよく眠れるように努めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はもらってきて変更があり次第介護記録のファイルに薬情を張り付ける、あるいは介護ソフトの掲示板に情報を書き込むことで何を飲んでいるか把握できるようにしている。薬は極力一包化してもらい誤薬防止や服薬しやすいように配慮している		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品など持ち込まれている（化粧品、好きな歌手のCD、野球選手のサインetc）利用者個々の能力に応じての日常生活の手伝いなどをしていただいている（食器洗い、洗濯物たたみetc）おやつレクやドイツゲームなどを取り入れ生活が単調にならないように働きかけをしている		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はお外レクでふくちのち、おおう桜街道、福太郎めんべい工場などの公共の地域資源を活用し普段いけないような場所へ外出支援を行った。美容院や一時帰宅。あるいは家族さんの外出の要望にも柔軟に対応その都度外出支援を行っている。	土曜日を中心に、近くの道の駅などに職員が同行し、買い物に出かけている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で持っていたただける方には極力自分でお金を持っていたくようにしている。職員にもお金を持つことで自尊心が満たされ文化性の維持に繋がることであると周知している。お金を使う際は職員が付き添いを行い使えるように事業所として支援をしている		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者家族からかかってきた場合は取り次いでいます。それ以外にも希望（美容院予約など）があれば事業所の電話を使って本人にしてもらっている。手紙を出すという方はいないが希望があれば応じれるように努めています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や雰囲気を感じてもらえるような環境に配慮している。照明や空調の調整に配慮して不快のないように心がけている。	筆筒や椅子など以前、住まわれていた自宅等から自室へ持ち込まれていた。また、集団生活のため、もの静かな環境に対しても配慮し、食堂のテレビはなるべく音量を下げ、個室のテレビはイヤホンで聞く様に支援がなされている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースではソファなど活用して、気の合った方との会話のできるスペースが自然にできています。自室ではなじみの家具や畳シート、座椅子を持ち込まれる方もおりおのおの居場所は確立されている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものや好きな歌手のポスターなどを本人の希望する位置に設置して少しでも在宅生活に近づけるよう配慮している	冷蔵庫やテレビ、筆筒など以前から自宅で使い慣れた品々で部屋を設え、安心、快適な住まいの確立がなされている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には各所手すりを備えている。部屋やトイレにはわかりやすいように表札を設置している。スタッフは現存の能力を活かすように支援を行い自立した生活が送れるように支援に努めている		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		